

【資料】

## 国立大学における編入学試験の出願動向

白川友紀，島田康行，大谷奨，本多正尚（筑波大学）

国立大学の編入学について，最近 11 年間にわたる志願者数，合格者数を概観した。大学編入学試験は，若干名の募集が多いことから合格者数の変動が大きいかと考えたが，最近 10 年間ほど全体としては志願者数，合格者数があまり変動することなく推移してきたことが分かった。しかし，分野別にみると，志願者数は理工系と医学で増加し農水系と看護他で減少し，合格者数は理工系と医学で少し増加し農水系他で少し減少しているため，全体としては大きくは変化していないことが分かった。理工系は倍率が低い，推薦入試による合格者が比較的多いため全体の倍率が低くなっていると考えられる。

### 1 はじめに

2012年2月18日と19日，東京において文部科学省の主催により「第1回サイエンス・インカレ」が開催された。18日は書類審査を通過した126組（口頭発表40組，ポスター発表86組）が発表を行い，口頭発表については「卒業研究に関連しない研究」と「卒業研究に関連する研究」のそれぞれについて，数物・化学系，工学系，生物系，情報・融合領域系の4つの分野の最優秀組を選出した。選出された8組は19日に再度発表を行い，審査の結果，卒業研究に関連する研究4組の中から，数物・化学系の米子工業高等専門学校物質工学科5年生が最優秀者に選出され，科学技術振興機構理事長賞を受賞した。他の3組は大学4年生の組であった。つまり，ありていに言えば，大学の2年生に相当する高専の5年生が3組の大学4年生に勝ったのである。（文部科学省，2012）

高専から大学3年次に編入する経路は，現在ではかなり一般的になっているが，大学にとって優秀な学生を入学させる事が期待できるため，編入学について，その概要を調べることにした。

編入学は生涯教育の一環としてとらえられ，先行研究が行われている。大規模なものとし

ては，吉川らが2002年に全国の大学の学部毎に調査を行い，編入学の状況とそれに伴う単位認定や生活支援等について報告している

（吉川他，2004）。清水は大学設置基準の改正から2000年までの間の生涯学習機会の保障のための高等教育制度の柔構造化の進展を示した（清水，2001）。鈴木は1998年の学校教育法と同施行規則改正において生じた編入学の問題を提起し改革方策を提示した（鈴木，2002）。立石は，2005年度に実施された調査データを用いて，編入学の受験資格（機会）と入学者の分布から分野や選抜度により入学者が特定の学歴に偏ること（立石，2008），編入学に関する日米の研究比較から編入学を総体としてとらえなおす作業が必要であること（立石，2009），編入学・転学経路による私的収益率の違い（立石，2010）を示した。小方らは高校と短期高等教育在籍時の調査から父母の期待が編入学の志望を強く規定していること等を明らかにした（小方他，2009）。

しかしながら，以上の編入学についての研究では入学者を対象にしており，志願者数や入試の倍率など選抜に関しては記載されていない。志願者数などについては西澤による報告があるが，ひとつの大学のある年についての報告である（西澤，2000）。

優秀な学生を採るためには、入試の倍率も重要であると考えるので、本稿では二次資料ではあるが情報が集積されている受験生向けの大学編入案内書のデータを参考に、最近10年間ほどの国立大学への志願動向についてまとめた。

なお、本稿では、大学からの編入や学士編入学も対象に含めている。

## 2 編入学試験出願動向

### 2.1 編入学データ

国立大学への編入学のデータは、受験生向けの情報誌を参考にした。(中央ゼミナール, 2003, 2005, 2007, 2009, 2011: 東京図書, オクムラ書店編集部) これらの資料に掲載されているデータは、古い資料では表記が一定せず、募集内容のみが掲載されていて志願者数や合格者数が「非公開」となっている大学もある。また、志願者数や合格者数が学部全体で一括して掲載されている場合も多い。近年になるほど、学科ごとやコースごとに志願者数と合格者数を掲載するなど、内容が詳しくなっている。これは大学の情報公開が進んでいるからであろう。

募集対象としては、高等専門学校を卒業したもの、短期大学卒業生、大学で2年間の履修を行ったもの、ならびにそれらの見込者であるが、特定の学校の卒業生に限るもの、大学卒業生に限るもの(いわゆる学士編入)、当該大学の卒業生に限るもの、社会人に限るものなどもある。募集人数は定員があるところもあるが、若干名としている組織が多い。入試の方法としては、一般入試だけでなく公募推薦入試もある。

### 2.2 全体の出願動向

2001年度から2011年度までの、国立大学の編入学試験実施大学数、学部(学群等も含む)数、志願者数、合格者数、倍率を表1に示す。大学数、学部数ともに、少なくとも一

部の学科等での志願者数か合格者数が公表されている場合の数である。

表1に示されるように、2001年度から2011年度までの11年間、志願者数が少し増えているようであるが、大きな変化はなさそうである。2004年度に大学数が減っているのは、大学の統合が行われたためである。

表1 国立大学編入学試験状況

年度	実施 大学	実施 学部	志願 者数	合格 者数	倍率
2001	83	228	17,634	5,040	3.5
2002	85	241	17,969	5,410	3.3
2003	83	247	19,485	5,594	3.5
2004	75	252	19,602	5,409	3.6
2005	75	252	19,772	5,553	3.6
2006	72	252	21,217	5,640	3.8
2007	72	254	21,870	5,435	4.0
2008	72	255	20,650	5,192	4.0
2009	72	253	21,270	5,571	3.8
2010	72	245	20,892	5,532	3.8
2011	72	243	19,997	5,336	3.7

### 2.3 分野別の出願動向

#### 2.3.1 分野

分野別の志願者数、合格者数の推移をみるため、人文系、社会系、教育系、農水系、理工系、医学、看護の7分野に分類した。

人文系は、文学部、人文社会(科)学部、人文(文化)学部、国際(文化)学部、教養学部、外国語学部、法文学部、文化教育学部などの、人文、文化、言語、歴史、地理ならびに行動学などの学科、コース等である。

社会系は、法学部、経済学部、人文社会科学部、国際(文化)学部、教養学部、商学部、社会学部、経営学部、法文学部、総合科学部などの、法学、経済学、商学、政治学、経営工学、社会学、政策、国際社会などの学科、コース等である。

教育系は、教育学部、発達科学部、人間学

部などの、教育学、各種教育コース、教員養成コース、発達科学、心理学などの学科、コース等である。

農水系は、農学部、水産学部、獣医学部、園芸学部、生命環境学部、環境科学部、人文社会科学部などの、農学、畜産学、獣医学、林学、生物生産学、環境科学などの学科、コース等である。

理工系は、理学部、工学部、理工学部、工学資源学部、線維学部、基礎工学部、システム工学部、総合理工学部、環境理工学部、工

芸科学部、海洋工学部、情報学部などの、数学、物理、応用物理、化学、応用化学、生物、工学、情報（工）学、建設、環境工学、などの学科、コース等である。

以上の分類は主に学科、コース名によって行った。

医学は、医学部医学科（医学類）である。

看護は、看護学部（学科）、保健学科などで、X線・放射線検査・診療や臨床検査の学科等は含めないようにしたが、学科全体の人数しか分からない場合はその人数を用いた。

表2 分野別の志願者の割合 (%)

年度	人文	社会	教育	農水	理工	医学	看護	その他
2001	7.4	13.0	3.1	6.9	31.3	25.7	9.3	3.4
2002	8.0	13.1	3.4	5.9	33.4	22.5	9.4	4.3
2003	8.1	13.2	3.7	5.1	31.5	25.3	9.3	3.9
2004	7.8	13.5	4.0	5.9	30.4	26.5	7.6	4.5
2005	7.6	12.6	4.2	5.9	31.7	25.6	8.2	4.2
2006	7.3	12.5	3.8	5.3	29.7	27.5	9.2	4.8
2007	8.2	13.0	3.5	4.4	28.2	29.1	9.0	4.7
2008	7.5	13.5	3.3	4.1	28.7	30.3	8.1	4.6
2009	7.9	14.6	3.5	4.1	32.2	27.6	6.1	4.0
2010	6.3	14.0	2.9	4.0	32.6	31.1	5.8	3.3
2011	7.2	13.3	2.9	4.3	33.7	30.5	5.3	2.8

表3 分野別の合格者の割合 (%)

年度	人文	社会	教育	農水	理工	医学	看護	その他
2001	7.9	14.7	3.7	7.2	53.9	2.6	5.7	4.2
2002	7.7	14.6	3.5	6.5	53.8	3.4	5.8	4.8
2003	8.2	15.0	3.4	6.5	51.7	4.0	6.8	4.4
2004	8.6	14.7	4.0	6.6	49.8	3.8	7.2	5.5
2005	8.1	13.4	3.7	6.6	50.5	3.8	8.9	5.0
2006	7.5	13.7	3.6	6.3	49.3	4.3	9.5	5.6
2007	9.0	13.7	3.1	5.9	48.9	4.1	9.9	5.4
2008	8.3	13.1	3.7	5.6	50.6	4.3	9.5	5.1
2009	7.5	13.6	3.4	5.2	54.2	4.3	7.4	4.6
2010	6.3	12.5	3.1	4.9	57.6	4.7	7.0	4.1
2011	7.2	12.3	3.2	4.8	57.7	4.8	6.8	3.2

表2と3に分野別の志願者と合格者の割合を示す。志願者の多い分野は理工系と医学系で、合格者が多いのは理工系である。

以下、各分野について実施大学、学部、志願者数、合格者数と倍率について述べる。

### 2.3.2 人文系

人文系の編入学試験状況を表4に示す。

表4 人文系の編入学試験状況

年度	実施大学	実施学部	志願者数	合格者数	倍率
2001	32	33	1,309	400	3.3
2002	34	34	1,440	416	3.5
2003	34	35	1,570	459	3.4
2004	36	38	1,522	463	3.3
2005	34	36	1,505	449	3.4
2006	34	36	1,551	423	3.7
2007	35	37	1,796	488	3.7
2008	34	36	1,542	430	3.6
2009	34	36	1,681	416	4.0
2010	33	35	1,312	346	3.8
2011	33	36	1,439	383	3.8

人文系では、2009年度まで合格者が400人を超えていたが、最近2年間は400人を切っており、最近3年間の倍率が少し大きくなっている。

### 2.3.3 社会系

社会系の編入学試験状況を表5に示す。

社会系では、最近5年間の倍率が少し高くなっている。2009年度まで合格者が700人を超えていたが、最近2年間は700人を切っており、最近2年間の合格者減少は、人文系と同様である。

表5 社会系の編入学試験状況

年度	実施大学	実施学部	志願者数	合格者数	倍率
2001	36	47	2,293	742	3.1
2002	37	47	2,359	788	3.0
2003	38	49	2,564	838	3.1
2004	39	51	2,638	794	3.3
2005	38	49	2,494	746	3.3
2006	39	49	2,655	775	3.4
2007	38	49	2,848	745	3.8
2008	38	49	2,778	679	4.1
2009	38	48	3,103	759	4.1
2010	36	45	2,915	694	4.2
2011	35	44	2,668	657	4.1

### 2.3.4 教育系

教育系の編入学試験状況を表6に示す。

教育系も2010年度と2011年度に志願者、合格者が少し減っている。

表6 教育系の編入学試験状況

年度	実施大学	実施学部	志願者数	合格者数	倍率
2001	14	14	538	187	2.9
2002	16	16	618	191	3.2
2003	17	17	715	191	3.7
2004	18	18	776	215	3.6
2005	18	18	821	204	4.0
2006	19	19	813	204	4.0
2007	20	20	772	171	4.5
2008	21	21	690	192	3.6
2009	21	21	741	187	4.0
2010	21	21	616	171	3.6
2011	21	21	580	173	3.4

### 2.3.5 農水系

農水系の編入学試験状況を表7に示す。

農水系も、2007年度以前は300人以上の合格者があったが、2008年度以降は合格者が300人未満となっている。

表7 農水系の編入学試験状況

年度	実施 大学	実施 学部	志願 者数	合格 者数	倍率
2001	26	27	1,223	362	3.4
2002	27	28	1,052	352	3.0
2003	28	29	996	365	2.7
2004	27	28	1,160	355	3.3
2005	27	28	1,161	366	3.2
2006	26	27	1,124	358	3.1
2007	26	27	962	321	3.0
2008	27	28	856	290	3.0
2009	27	28	882	288	3.1
2010	26	27	846	271	3.1
2011	26	27	858	256	3.4

### 2.3.6 理工系

理工系の編入学試験状況を表8に示す。

理工系は、実施大学、学部、志願者、合格者が多い。また、2001年度から2011年度の11年間で少しずつ志願者、合格者が増えている。

大学数より学部数が多いのは、1つの大学で理学部と工学部のように複数の学部で募集を行っていることによる。倍率は2倍強で他の分野と比較すると高くない。

### 2.3.7 医学

医学部、医学科への編入学試験状況を表9に示す。2001年度から2011年度まで合格者数は増えているが、志願者数も4千人から6千人に増えており、11年間22倍以上の高倍率である。

表8 理工系の編入学試験状況

年度	実施 大学	実施 学部	志願 者数	合格 者数	倍率
2001	59	82	5,512	2,719	2.0
2002	60	83	5,998	2,910	2.1
2003	60	83	6,137	2,890	2.1
2004	59	85	5,962	2,693	2.2
2005	59	85	6,273	2,806	2.2
2006	58	84	6,291	2,780	2.3
2007	58	85	6,168	2,659	2.3
2008	58	87	5,932	2,627	2.3
2009	58	86	6,847	3,018	2.3
2010	57	84	6,808	3,184	2.1
2011	57	84	6,739	3,079	2.2

表9 医学の編入学試験状況

年度	実施 大学	実施 学部	志願 者数	合格 者数	倍率
2001	18	18	4,527	129	35.1
2002	23	23	4,049	184	22.0
2003	27	27	4,934	222	22.2
2004	27	27	5,188	206	25.2
2005	29	29	5,065	209	24.2
2006	29	29	5,829	245	23.8
2007	29	29	6,359	222	28.6
2008	27	27	6,251	224	27.9
2009	27	27	5,869	238	24.7
2010	27	27	6,500	259	25.1
2011	27	27	6,102	256	23.8

### 2.3.8 看護

看護の編入学試験状況を表10に示す。

2005年度から2007年度にかけて志願者、合格者が多くなっているが、その後、志願者は約半分、合格者は約3分の2に減っており、倍率も下がり続けている。

表 10 看護の編入学試験状況

年度	実施 大学	実施 学部	志願 者数	合格 者数	倍率
2001	24	24	1,637	288	5.7
2002	27	27	1,695	314	5.4
2003	29	29	1,813	383	4.7
2004	32	32	1,482	387	3.8
2005	36	36	1,616	493	3.3
2006	39	39	1,945	537	3.6
2007	40	40	1,958	540	3.6
2008	37	37	1,673	493	3.4
2009	37	37	1,302	415	3.1
2010	36	36	1,221	389	3.1
2011	36	36	1,061	361	2.9

### 3 結果と考察

大学への編入学は募集人数も多くなく、また、医学、看護以外は、若干名の募集とされている組織が多い。過去の募集人数の推移は調べることができなかったが、2012年度の編入学試験について分かった範囲での募集人数を表11に示す。

公表された募集人数が「〇〇名」と表示されている場合と「〇〇名以下」と表示されている場合の〇〇の数値を合計し、「若干名」と表示されている場合は数えなかった。

表 11 2012年度の編入学試験募集人数

分野	募集人数
人文系	280
社会系	477
教育系	45
農水系	189
理工系	1,938
医学	207
看護（保健）	541
その他	88
計	3,765

看護の分野については、保健学科などの全体の募集人数しか分からない場合はその人数を用いたので、看護だけの募集人数より多くなっている。

表11の募集人数と比べると、表4～8に示されるように人文、社会、教育、農水、理工の各分野の合格者数はかなり多い。これらの分野では表11に数えられない「若干名」の募集があることがひとつの原因と考えられる。一方、医学と看護では各大学で編入学定員を定めて募集しており、ほぼ募集人数どおりか、それ以下の人数を合格させている。

編入学試験の倍率が高いのは、表9に示されるように医学分野で、11年間通じて22倍以上であった。11年の間には、3年次編入や2年次第3学期編入から2年次編入への変更、学士編入から大学2年修了も可とする変更や逆の変更も行われているが、医学部への編入全体としては、募集人数（合格者数）と志願者数が増加傾向にある。一方、倍率が低いのは表8に示されるように理工系である。ただし、理工系では推薦入試があり、2011年度には志願者659名のうち568名が合格している。そのため一般入試だけの倍率は表の数値より少し高いと考えられる。

国立高等専門学校卒業生の大学編入状況については、国立高等専門学校機構からも発表されている。表12に国立高等専門学校機構が発表した2009年度の高専からの大学編入者数を入学者数の多い大学から10大学（入学者50名以上の大学でもある）分を示す。2009年度の国立高専からの大学編入者は2404名であった。また、表8から、この年の理工系の合格者は（数えられていない人もいるが）3,018名であった。複数の大学に合格する者もいることから、理工系の大学への編入の多くが高専の卒業生であると考えられる。また、表12の上位2大学が特に多くの高専卒業生を入学させているが、約半数が推薦入試による入学者である。

表 12 国立高専からの大学編入学状況  
2009年度（高専機構）

大学名	人数
長岡技術科学大学	350
豊橋技術科学大学	339
九州工業大学	82
筑波大学	79
千葉大学	68
東京農工大学	64
熊本大学	58
金沢大学	55
大阪大学	53
電気通信大学	50
その他の大学	1206
合 計	2404

#### 4 おわりに

大学編入学試験は、若干名の募集が多いことから合格者数の変動が大きいかと考えたが、表1の集計結果から、最近10年間ほど全体としては志願者数、合格者数があまり変動することはなく推移してきたことが分かった。しかし、分野別にみると、志願者数は理工系と医学で増加し農水系と看護他で減少しており、合格者数は理工系と医学で少し増加し農水系他で少し減少しているため、全体としては大きくは変化していないことが分かった。

個々の大学や学部、学科について見ると、募集要件の変更などもかなり頻繁に行われており、2012年度から課程を区別しない特別推薦入試が始まっている。また、全体、各分野ともに2011年度に合格者数あるいは志願者数が減っているように見えるが、これからも続く傾向なのか、今後の推移が興味深い。

#### 謝辞

本稿の査読者に非常に有益なコメントをいただいたことに感謝する。コメントのすべてに答えることができなかつたことは筆者の責任である。データ入力に協力いただいた筑波

大学工学システム学類の川瀬氏に感謝する。また、本研究は一部に科研費(23402003)の助成を受けた。

#### 参考文献

- 中央ゼミナール(2003).『2004年度版 大学編入・転部ガイド』東京図書.
- 中央ゼミナール ステップアップサポート部(2005).『まるわかり!大学編入～はじめての大学編入～06～07年度版』オクムラ書店.
- 中央ゼミナール ステップアップサポート部(2007).『まるわかり!大学編入～はじめての大学編入～08～09年度版』オクムラ書店.
- 中央ゼミナール ステップアップサポート部(2009).『まるわかり!大学編入～はじめての大学編入～10～11年度版』オクムラ書店.
- 中央ゼミナール ステップアップサポート部(2011).『まるわかり!大学編入～はじめての大学編入～12～13年度版』オクムラ書店.
- 文部科学省(2012) 第1回サイエンス・インカレ表彰者の決定について 文部科学省 2012年2月20日  
<[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/02/1316833.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/02/1316833.htm)>.
- 西澤宗英, 編入学(転入学)制度の活用(大特集 変わる入試 変わる大学) — (特集 新入学制度の展開), 大学時報, 49(273), 52-57, 2000.
- 小方直幸, 立石慎治, 編入学の選択構造に関する考察, 広島大学大学院教育学研究科紀要第三部, 58, 293-300, 2009.
- オクムラ書店編集部.『総ガイド全国大学編入・転部 2004年度版』オクムラ書店.
- 清水一彦, 生涯学習と大学システム問題—単位互換制度・編入学制度を中心に—,

- (特集 生涯学習と教育改革の時代), 日本生涯教育学会年報 (22), 13-30, 2001.
- 鈴木克夫, 高等教育機関における編入学制度の考察, 日本生涯教育学会論集, 23, 53-60, 2002.
- 立石慎治, 高等教育機関を移動する学生—受験機会と入学実態—, 大学評価・学位研究, 7, 19-32, 2008.
- 立石慎治, 高等教育機関間の学生の移動—日米の編入学研究の動向と課題—, 広島大学高等教育研究開発センター大学論集, 40, 217-232, 2009.
- 立石慎治, 編入学の費用便益分析—私的収益率に着目して—, 広島大学高等教育研究開発センター大学論集, 41, 393-409, 2010.
- 吉川裕美子, 濱中義隆, 林 未央, 小林雅之, 学生の流動化と学士課程教育—全国調査にみる編入学, 単位認定, 学生交流と支援体制の実態—, 学位研究, 18, 2004.